



■ 感染性胃腸炎の流行期に入りました！

例年11月から2月に流行する感染性胃腸炎ですが、東京都では12月5日に流行警報が発令されました。東京都の12月15日現在の発表では、2013年第50週(12月9日～15日)の患者報告数は、過去5年間の同じ時期としては最も多くなっているようです。(東京都感染症情報センターより)

感染性胃腸炎とは、主にウイルスなどの微生物を原因とする胃腸炎の総称です。原因となるウイルスにはノロウイルス・ロタウイルス・サポウイルス・アデノウイルスなどがあります。主な症状は腹痛・下痢・嘔吐・発熱です。症状のある期間が比較的短く、ウイルスを原因とする胃腸炎に特別な治療法(抗ウイルス剤など)がないことから、対症療法が行われます。



ノロウイルスによる感染性胃腸炎

年齢に関係なく感染します。また、ウイルスの変異のため再度感染することがあります。経口感染で、十二指腸(胃と小腸をつなぐ消化管)の上皮で増殖します。感染経路は、糞便や嘔吐物を介する「ヒトからヒトへの感染」と、汚染された食品を介して起こる「食中毒」に分けられます。食中毒はノロウイルスを内臓に取り込んだカキやジジミ等の二枚貝を、生または不十分な加熱処理で食べた場合や、感染した人が十分に手を洗わずに調理した食品を食べた場合に起こります。症状は1～2日と短いのですが、少量でも感染力が強いウイルスです。症状のある人の便や、嘔吐物には大量のウイルスが含まれているので、処理の際には使い捨てのマスク・手袋・エプロンの着用、汚物はビニール袋に包んで捨てる、処理後は十分に手洗いをする、などの注意が必要です。ノロウイルスは乾燥に強く、衣服や物品についていた場合でも3～4日位は感染力ががあります。時間がたってからのヒトへの感染も起こりますから、衣服・家具・物品の消毒も重要です。

ロタウイルスによる感染性胃腸炎

6ヶ月～2歳の乳幼児に感染することが多く、5歳までにはほぼ100%の児が感染します。症状は5～6日続く場合もあります。このウイルスによる感染性胃腸炎の場合、便の色は白色になることも特徴です。下痢が強いため脱水症状への注意が必要です。症状が収まった後もウイルスを排出する期間が約1週間位続いたため手洗いの励行が必要です。また、ロタウイルスの予防接種もできました。生後6週以後の赤ちゃんが対象です。



この時期は、インフルエンザの流行期でもあります。手洗いはいろいろな感染症の予防としてぜひ実行しましょう！！

担当: 検査課